

基本方針	1 資料の収集と保存の充実																																				
2019 年度事業目標	<p>①大活字本の利用状況を館ごとに調査し、蔵書構成の充実に生かします。</p> <p>②音訳資料等の保存のため、谷戸図書館書庫の資料を整備します。</p> <p>③マルチメディアデイジー図書を積極的に収集し、利用促進を図ります。</p>																																				
具体的な取組	<p>①最近の大活字本の利用状況を確認・比較した結果、貸出回数は館の所蔵資料数にある程度比例することや、中央・柳沢は他館と比較するとかなり予約件数が多く、ニーズが高いことがわかりました。</p> <p>・2015 年～2019 年度までの各館ごとの大活字本の年間貸出数平均</p> <table border="1" data-bbox="395 683 1426 779"> <tr> <td>中央</td> <td>保谷駅前</td> <td>芝久保</td> <td>谷戸</td> <td>柳沢</td> <td>ひばりが丘</td> </tr> <tr> <td>1324 回</td> <td>1013 回</td> <td>619 回</td> <td>2586 回</td> <td>1160 回</td> <td>749 回</td> </tr> </table> <p>・2020 年 3 月末時点での各館所蔵数(上段:開架 下段:閉架)</p> <table border="1" data-bbox="395 828 1426 974"> <tr> <td>中央</td> <td>保谷駅前</td> <td>芝久保</td> <td>谷戸</td> <td>柳沢</td> <td>ひばりが丘</td> </tr> <tr> <td>445 冊</td> <td>464 冊</td> <td>387 冊</td> <td>1401 冊 1916 冊</td> <td>525 冊</td> <td>483 冊</td> </tr> </table> <p>・2015 年～2019 年度までの各館ごとの大活字本の年間予約提供数平均</p> <table border="1" data-bbox="395 1023 1426 1120"> <tr> <td>中央</td> <td>保谷駅前</td> <td>芝久保</td> <td>谷戸</td> <td>柳沢</td> <td>ひばりが丘</td> </tr> <tr> <td>222 回</td> <td>106 回</td> <td>76 回</td> <td>76 回</td> <td>214 回</td> <td>116 回</td> </tr> </table> <p>所蔵状況の把握、利用者への PR のため、目録を作成しホームページに掲載した。現在所蔵の大活字本の中で状態が悪いものの調査をし、流通のある資料については買い替えを行いました。</p> <p>・買い替え数(95 冊)</p> <p>②対面朗読資料原本や大活字本を整理し音訳資料等のスペースを確保しました。</p> <p>・対面朗読資料原本:5 年以上前の資料は除籍し、市民配布</p> <p>・大活字本:複本のある資料の一部を除籍し、市内高齢者施設等へ団体配布</p> <p>音訳資料保存のための整理として、緊急雇用時に作成した保存用の CD 版を整理しカセットテープ版を処分することにより、書庫の保存資料の整備を行いました。</p> <p>③新しくマルチメディアデイジー図書の購入を行ったほか、寄贈されたわいわい文庫も装備し、今後の学校へのマルチメディアデイジー導入に向けての準備を行いました。</p> <p>・購入数(12 タイトル)</p> <p>・寄贈受け入れ数(4 タイトル)</p> <p>利用促進のためのマルチメディアデイジーリストを作成しました。</p> <p>マルチメディアデイジー図書の目録を作成し、図書館ホームページに掲載、また、デイジー図書目録とともに音声版も作成しました。</p>	中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘	1324 回	1013 回	619 回	2586 回	1160 回	749 回	中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘	445 冊	464 冊	387 冊	1401 冊 1916 冊	525 冊	483 冊	中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘	222 回	106 回	76 回	76 回	214 回	116 回
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘																																
1324 回	1013 回	619 回	2586 回	1160 回	749 回																																
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘																																
445 冊	464 冊	387 冊	1401 冊 1916 冊	525 冊	483 冊																																
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘																																
222 回	106 回	76 回	76 回	214 回	116 回																																

<p>自己評価 取組改善点</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>	<p>①より利用者のニーズに合わせた蔵書構成にするためには、貸出回数が多い資料、児童向け大活字本の利用状況などに対する調査が不十分でした。今後これらの調査を行ったうえで大活字本の購入・所蔵計画を立てる予定です。また、今回の調査により中央・柳沢に特にニーズがあることがわかりましたが、スペースの問題から蔵書を増やすことは難しいため、館内で閲覧可能な、大活字所蔵目録の作成が必要と感じました。</p> <p>②今回の整理により、現状のハンディキャップサービス資料の保管場所内での一定のスペースが確保できました。しかし、今後も利用者のニーズに応じて音訳資料を作成することを考えると、谷戸図書館書庫全体の資料配置の見直しが課題です。</p> <p>③令和2年度は、ハンディキャップサービスの機器の入れ替えとともにマルチメディアデジターを利用するための機器の整備を行い、利用促進に向け環境を整えます。</p>
<p>備考</p>	

基本方針	2 すべての市民に活用されるために
2019 年度事業 目標	学習機会を提供するための講演会・講座を実施します。
具体的な取組	<p>昨年度に引き続き、テーマ別コーナーに関連する講演会を実施しました。</p> <p>●法律情報関連講演</p> <p>①演題:『高齢社会と消費者トラブル』 村井宏彰氏(法テラス多摩法律事務所弁護士) 参加者:13名 満足度:100%</p> <p>②演題:『成年後見と家族信託』 講師:加藤梓氏/森脇崇氏(法テラス多摩法律事務所弁護士) 参加者:49名 満足度:95%</p> <p>・法律関係講演会では、市内の法律相談窓口や法テラス利用方法の紹介・リーフレット配布、館内法律情報コーナーの紹介も同時に行いました。講演後、法律情報コーナーにて講演関連資料を閲覧する参加者の姿が散見されました。</p> <p>●ヘルスリテラシー関連講演</p> <p>①演題:『知って、そなえて、病気のこと』 望月眞弓氏(NPO 法人キャンサーリボンズ理事/慶應義塾大学薬学部特任教授/ 日本薬学図書館協会長) 参加者:32名 満足度 87%</p> <p>・ヘルスリテラシー関連講演では、市健康課が毎年発行している健診案内や市内病院案内等の紹介も同時に行い、館内健康・医療情報コーナーの貸出人気資料リストの配布も行いました。</p>
自己評価 取組改善点 A	参加人数が多く、市民の興味関心が高いと思われる分野の講演は予備知識の有無により満足度が左右されるため、対象者や定員の設定と内容のすり合わせをより綿密に行っていく必要があります。
備考	3月1日の図書館ホームページリニューアルのタイミングで、法律情報、健康・医療情報それぞれに、上記講演会で紹介された信頼度の高い外部参考サイトや関連機関を一覧できる独立ページを作成しました。

基本方針	2 すべての市民に活用されるために
2019 年度事業 目標	地域性を考慮した最新情報を提供するため、ビジネス支援コーナーの書架構成を再検討します。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・従前のビジネス支援コーナーを解体し、市内事業者、市内求職者、市内で起業を希望する人に対象を再設定し、分類・書架を再構成しました。 ・図書資料以外にも、自治体や関係機関発行のチラシを、産業振興課の協力のもと収集、配架しました。 ・図書館ホームページリニューアルのタイミングで、全分類での所蔵資料リストを検索可能にし、外部の参考サイトを一覧できる『ビジネス情報』ページを作成、当該ページ QR コードを埋め込んだ配布用のしおりを作成しました。
自己評価 A 取組改善点 —	図書館開館後の書架の動き等を確認し、都度改善を行っていく予定です。
備考	再設定した対象者向けのビジネス誌を、雑誌架からコーナーへ移管しました。

基本方針	2 すべての市民に活用されるために
2019 年度事業 目標	<p>①学習機会を提供するための講演会・講座を実施します。</p> <p>②迅速で信頼性の高いレファレンスを行うため、職員向け研修を実施します。また、西東京市図書館で作成したレファレンス記録のデータ整備を進めます。</p> <p>③国立国会図書館レファレンス協同データベースを活用し、レファレンス記録情報を公開します。</p>
具体的な取組	<p>①○データベース講座を開催(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演題:「図書館で見る聴く なつかしのオリンピック」 ・参加者:11名 ・アンケート:満足度 36%(満足4 不満4 無記入3) <p>○ショートセミナー開催:15分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーを4回実施しました(8・10月)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演題:「夏休みの宿題に! データベース使い方講座」2回 ・参加者:5名(使用端末2台) ・演題:データベースショートセミナー「国立国会図書館デジタルコレクション」2回 ・参加者:8名(使用端末2台) <p>○データベースアクセス件数:前年比で変化が見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞蔵Ⅱビジュアル:令和元年度 180回(平成30年度 64回) ・国立国会図書館デジタルコレクション:令和元年度 169回(平成30年度 790回)(※閲覧数) ・国立国会図書館歴史的音源:令和元年度 100回(平成30年度 43回) ・ジャパンナレッジ:令和元年度 97回(平成30年度9回) <p>②レファレンス研修を実施</p> <p>内容:レファレンス記録を利用した実習とレファレンス協同データベースへの入力研修</p> <p>③レファレンス協同データベースへの登録数:259件(内48件を一般公開)</p> <p>国立国会図書館長から御礼状が送付されました(年間データ登録件数が200件以上となった館を対象に送られます)。</p>
自己評価 取組改善点 A	<p>①データベース講座では、講座タイトルからオリンピックの動画を期待していた参加者や、データベースの使用方法の比重が大きかったことに不満を感じていた参加者がいたため、満足度に関きがありました。今後は、対象者と講座内容のすり合わせを慎重に行い、広報の方法を工夫します。講座後、実際にデータベースを利用するようになった方や、詳しい操作方法の質問があり、データベースの周知に一定の効果はあったと考えます。</p> <p>ショートセミナーでは、夏休みの宿題に役立つデータベースの紹介を行い、高校生の参加がありました。今後も学生へのアプローチ方法を検討していきます。ショートセミナーに関しては、個々の目的に応じた使用方法の説明を目指しており、少人数での開催を今後も予定しています。</p> <p>②研修参加者からは、データベースに触れることができ良かった、レファレンス協同</p>

	<p>データベースを検索にも使ってみたい、という声がありました。西東京市図書館で実際にあったレファレンスを研修で使用することで、事例の共有を図ることができました。今後もレファレンス協同データベース入力件数の推移を検証しつつ、随時改善を行いながら、研修を継続していく予定です。</p> <p>③研修等を経て職員内のレファレンス協同データベース活用は定着しつつあると考えます。今後は、一般公開する事例を増やしつつ、より活用されるような広報の方法を検討していきます。</p>
備考	

基本方針	2 すべての市民に活用されるために
2019 年度事業 目標	<p>①多文化理解のためのサービスとして、市や地域で作成している外国語資料や情報発信について、現状調査を行います。</p> <p>②多文化理解のためのおはなし会を継続実施します。</p> <p>③利用しやすい環境づくりのため、各館内の表示・サインの調査と検討を行います。</p>
具体的な取組	<p>①市内で活動されている日本語ボランティア 12 教室へ活動内容及び図書館へ望むこと等のアンケート協力を依頼し、10 教室から回答を得ました。</p> <p>図書館に期待する主な回答内容として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の方のための日本語学習の本のコーナー ・学習者がレベルにあわせて読める本をそろえてほしい。(こども本でなく) ・第二言語としての日本語の教授法についての専門書 ・外国人が図書館を利用しやすくなる活動をしてほしい ・多言語でのお話会や読み聞かせ会 等の内容でした。 <p>また、他自治体の事例(東久留米市、新宿区大久保図書館、板橋区ボローニャ絵本館)を視察し、多文化理解のサービスを発信する手がかりを得ました。</p> <p>②多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしむおはなし会」</p> <p>英語、中国語、韓国語を母語とする人による読み聞かせ</p> <p>1回目:31 人参加 満足度 82%</p> <p>2回目:17 人参加 満足度 100%</p> <p>3回目:中止</p> <p>日本語多読ワークショップ「いっしょに読もうやさしいにほんご」</p> <p>講師:NPO 多言語多読</p> <p>参加者:6人(中国、韓国、ベトナム出身)満足度 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を学習している人を対象に、図書館を親しんで利用してもらうことを目的として、日本語のレベルに応じた図書館の蔵書を一緒に読み感想を共有しました。希望者には館内を案内しながら、図書館の利用方法も伝えました。 <p>さらに、多文化理解のための展示を企画しました。</p> <p>1月:柳沢図書館「おなじ絵本 de よみくらべ」(アンケート参加 21 人)同じ絵本で日本語、中国語、韓国語の蔵書を展示しました。</p> <p>3月:保谷駅前図書館「えほん de 楽しむいろいろなことば」【中止】</p> <p>③利用しやすい環境づくりのため、ハード・ソフト両面で取組を実施しました。</p> <p>【ハード】全館の表示・サインを確認した結果、以下2点の改善を行いました。</p> <p>(1) ひばりが丘図書館の玄関にある表示が汚い、館内のトイレ及び非常口の案内がわかりにくい。→玄関の表示は英語案内を外して日本語表記の案内板をつくり、トイレ及び非常口の案内もわかりやすくしました。</p> <p>(2) 利用者へ館内利用における注意喚起の表示が全館で統一されていないため、注意喚起表示を1枚のポスターにまとめ、各図書館へ配布しました。</p> <p>【ソフト】図書館職員の課内研修を実施し、職員間における多文化理解の考え方や対応等について理解を深めました。</p>

<p>自己評価 取組改善点</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>	<p>①本調査を基に西東京市図書館でどのように多文化理解の発信や展開をしていけるかを検討していきます。また、多文化サービスに関連した活動をしている団体やサービスを行っている機関への調査は適宜必要に応じて継続して行い、利用者ニーズに合わせたサービスを展開していきます。</p> <p>②おはなし会だけでなく各種行事を企画し、多文化理解を深める取組の継続をしていきます。</p> <p>③今回確認した事項を踏まえ、利用しやすい環境づくりのハード面について、更に継続して検討していきます。</p>
<p>備考</p>	

基本方針	3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する
2019 年度事業 目標	<p>①西東京市に縁(ゆかり)のある人物情報・関連情報を図書館ホームページや講演会等で積極的に発信するとともに、収集を継続します。</p> <p>②電子化した西東京市の地図や古文書、市史等歴史的資料の利活用を促進するため、Webでの公開に取り組みます。</p>
具体的な取組	<p>①●講演会の実施</p> <p>在任 中川越氏によるこどもイベント 「もらってうれしい手紙の書き方・もらった手紙を本にしちゃおう」 昨年度に続き、児童サービス担当との共催により、縁と子どもの合体企画となりました。</p> <p>在任 石井正己氏による講演会 「西東京市ゆかりの文化人 尾崎秀樹の業績」 縁の講師による縁の故人についての講演となり、尾崎氏のご遺族や知人の協力もあり充実した内容となりました。</p> <p>●ホームページ「縁」コーナーの更新 講演会の実施や寄贈情報の追記を随時こまめに更新させました。</p> <p>②図書館振興財団の助成を受け、電子化した個々の資料に加工技術を施し、最適な見せ方を選定し、高精細画像で「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」として、以下の資料を「デジタルアーカイブシステムADEAC」を活用して公開した。(「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」サイトの3月1ヶ月のアクセス数はトップページで688件、総数で7,417件) 公開開始は、図書館ホームページのリニューアルに合わせ3月1日としました。</p> <p>【対象資料】</p> <p>1.「田無市史」通史編1冊・民俗編1冊 「保谷市史」通史編全4冊</p> <p>2.「田無村御検地帳(西東京市指定文化財)」1冊</p> <p>3.「柳沢つげの手紙」47通</p> <p>4.「田無:地租改正絵図(西東京市指定文化財)」5点 「保谷:大絵図」4点</p> <p>5.「公用分例略記」17冊(西東京市指定文化財), 「田無村絵図」35点</p> <p>ただし、5.は、西東京市図書館内における限定公開 図書館振興財団の助成により、当初の計画が前倒しできました。特に「柳沢つげの手紙」においては、縁の古文書研究家吉田豊氏と、永瀬鉄男氏の協力により解説・解説の掲載ができた。これは、5か年の計画の中で目指していたことであり、初年度で実現できたことは有意義で、次へのステップになりました。</p>

<p>自己評価 取組改善点</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>①担当職員の交代があっても、図書館に協力して下さる縁の方々との円滑な交流を続け、深められるように留意します。</p> <p>縁の人物情報の公開については、公開の可否について、個々に調査が必要なケースもあるため、慎重に進め、確実なデータベース作りにつながるよう努めます。</p> <p>②公開直後の3月に講演会で公開資料の活用を予定していたが、新型コロナにより中止となったこともあり、令和2年度以降、あらためて地域の特性を踏まえたイベント等の企画や情報発信を行い、公開資料の活用促進に取り組みます。</p> <p>同時に、幅広い学びの支援につながるよう、所蔵資料を精査して、魅力ある資料の公開を拡大するように努めます。</p>
<p>備考</p>	

基本方針	4 未来を担う子どもの読書活動の支援																
2019 年度事業 目標	<p>③団体貸出用すいせん図書パック「いいね！！西東京市おすすめ(セレクト)本」の利用促進を図ります。</p> <p>⑤絵本と子育て事業を継続して実施し、子どもと保護者の読書活動を支援します。</p> <p>⑥図書館利用のきっかけ作りにつなげるため、参加型行事の内容を検証します。</p> <p>⑧YA世代を対象とした読書会等、読書の楽しみを他者と共有できるイベントを開催します。</p>																
具体的な取組	<p>③図書館資料の有効活用のため、図書館で小・中学生向けにそれぞれ作成した「夏休みすいせん図書」掲載の本をグレード別にまとめてセットにした「いいね！！西東京市図書館おすすめ(セレクト)本」の貸出しを平成 29 年度から実施。</p> <p>平成 30 年度からはセット内容をグレード別に組み換え、また、児童館・学童クラブにも対象を拡大しました。</p> <p>今年度も利用促進のため PR をすすめて、貸出セット数は増加傾向にあります。</p> <p><西東京市おすすめセレクト本団体貸出し推移></p> <table border="1" data-bbox="456 824 1423 1025"> <thead> <tr> <th></th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>3 校 (3 パック)</td> <td>6 校 (35 パック)</td> <td>6 校 (66 パック)</td> </tr> <tr> <td>学童クラブ</td> <td>—</td> <td>7 か所(14 パック)</td> <td>2 か所(6 パック)</td> </tr> <tr> <td>児童館</td> <td>—</td> <td>2 か所(2 パック)</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤(1)絵本と子育て事業</p> <p>3・4ヶ月健診に参加した乳児とその保護者に対して、絵本のプレゼント(『ぼんちんぱん』または『くっついた』2冊の絵本の内1冊をその場で選んでもらう)や講師による読み聞かせ、図書館のご案内(乳幼児を対象としたおはなし会や0歳から利用登録できること等をPR)を行いました。</p> <p>令和元年度実施回数 27 回 ※新型コロナウイルスによる中止1回 参加人数 1,378 人・絵本配布率 99.6%</p> <p>(2)絵本と子育て事業3歳児フォロー事業</p> <p>3歳児健診に参加した幼児とその保護者に対し、特設会場にて講師によるスペシャルおはなし会やブックリスト「えほんだいすき」の配布、図書館の案内等。</p> <p>令和元年度実施回数 26 回(内講師あり 24 回)※中止3回 参加人数 138 人・参加率 11.3%</p> <p><参考></p> <p>30 年度実施回数 30 回(内講師あり 22 回・参加率 11.5%) 29 年度実施 20 回(内講師あり 15 回・参加率 10.9%)8 月から開始。</p> <p>⑥「夏休み自由研究おうえん企画～図書館からのミッションをクリアせよ！」8 月中央図書館で実施。対象:小学校4年生～6年生、参加者:小学生9名</p> <p>図書館からクイズ形式で出題されたテーマについて資料を調べ回答するというミッションのクリアを通じて、図書館を使った調べ方のノウハウを伝え、普段は図書館を利用する機会の少ない子どもや保護者にも図書館の機能や便利さを伝えました。</p> <p>「NDC は魔法の記号！」として、十進分類法についても説明の時間を設け、回答方</p>		29 年度	30 年度	令和元年度	小学校	3 校 (3 パック)	6 校 (35 パック)	6 校 (66 パック)	学童クラブ	—	7 か所(14 パック)	2 か所(6 パック)	児童館	—	2 か所(2 パック)	0
	29 年度	30 年度	令和元年度														
小学校	3 校 (3 パック)	6 校 (35 パック)	6 校 (66 パック)														
学童クラブ	—	7 か所(14 パック)	2 か所(6 パック)														
児童館	—	2 か所(2 パック)	0														

	<p>法をビンゴカードにしてそろったらクリアなどの工夫をしました。「楽しかった」、「本の探し方の工夫に気づいた」、「十進分類法が考えて作られていることを知った」といった感想があり好評でした。</p> <p>⑧YA世代(小学校6年生から18歳)を対象にイベントを企画しました。 「YAワークショップ「プレゼントブック～だれかに本を贈るなら」 3月、ひばりが丘図書館、定員20名 用意した本の中から、参加者が「だれか」を想定して贈りたい3冊の本を選び、メッセージカードをつけ、それぞれの選んだ本を参加者同士で共有します。</p>
<p>自己評価 取組改善点</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>③小学校は全18校のうち一部の利用であること、児童・学童クラブへの利用はそれほど増えていないことから、継続したPRが必要と思われます。</p> <p>⑤3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が離れているという問題があり、参加率の伸びにつながりませんでした。一方で、図書館だより76号一面において、絵本と子育て事業のPRを行ったところ、市民から下記の意見が寄せられました。「健診では、3歳児の限界を遥かに超えた長時間拘束され、親子共々(特に子供が)疲労困憊した状態で、早く帰りたいと子供が懇願する状況で読み聞かせのお誘いを受け、泣く泣く断って帰路に着きました。とても良い取り組みだと思うので、ぜひ参加したかったですが、健診の後では無理でした。」 会場問題を改善するため、令和2年度からは健診会場と同じフロアにパーテーションで区切ったコーナーを設け実施予定です。 (※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、4月以降も事業中止) 絵本と子育て事業、3歳児フォロー事業共に、新型コロナウイルスの影響により健診のあり方が変わっていく中で、どのように絵本と子育て事業を行っていくか情勢を鑑みながら検討していく必要があります。</p> <p>⑥自分で調べることを中心とした参加型の企画は今後継続していく方向です。</p> <p>⑧新型コロナウイルス感染防止のためイベントは中止。令和2年度に改めて計画予定。 講師である学校司書と調整を行い、事前準備が足りないイベント内容や、受験の時期が終わるタイミングに合わせた日程を設定しましたが、事前の申し込みは3名にとどまりました。改めて実施する際にはよりYA世代が興味を持つ内容への修正や、申込み手段へのメール導入など、参加者がより気軽に申し込める形で行うことが課題です。</p>
<p>備考</p>	

基本方針	5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上
2019 年度事業 目標	<p>①武蔵野大学協力事業を推進します。</p> <p>②西東京市の歴史的資料の公開に向けて、関連部署と連携します。</p> <p>③東京オリンピック・パラリンピック 2020 資料展示を実施します。</p> <p>④絵本と子育て事業について、読み聞かせ講師の協力による事業の充実を図ります。</p> <p>⑤新たな音訳者の養成と音訳者の技術向上のため、中級養成講座・専門研修を実施します。</p> <p>⑥宅配ボランティアへの研修を継続的に実施するとともに、サービス充実のため引き続きボランティアの募集を行います。</p>
具体的な取組	<p>①武蔵野大学図書館の市民利用のため、市内 6 館での武蔵野大学図書館利用証の貸出を行った(全館で 187 回の貸出実績)。</p> <p>②「デジタルアーカイブシステム ADEAC」を活用して WEB 上に公開した資料に関して、主に社会教育課文化財係に所有者との調整等を相談しながら実施した。</p> <p>③中央図書館と谷戸図書館で各々 1 か月間、オリンピック・パラリンピックの関連本の展示を実施した。ホストタウンであるオランダ王国の関連本を含め、一般書と児童書を展示し、中央図書館 115(展示数 75)回、谷戸図書館 73(60)回を貸出。また応援メッセージも同時に募集し、中央図書館 56 通、谷戸図書館 90 通の応募があった。スポーツ振興課の協力のもと、オランダに関するパネル展示や応援メッセージ参加者に対してオリンピックバッジの配布等を行った。</p> <p>④基本方針 4-⑤を参照</p> <p>⑤・新たな音訳者養成のため、中級養成講座・デイジー編集者養成講座(実際に広報の音訳・編集作業に参加する録音研修など)を実施。</p> <p>・音訳者の技術向上のため、音訳実習(図表の処理について・音訳資料の読み方について・広報類等の文章の音訳の読み方について)による専門研修を実施。</p> <p>⑥・ボランティアの人数が不足していた、ひばりが丘・保谷にエリアを絞ってボランティアの募集を行い、新たに 4 名のボランティアが登録した。</p> <p>・新しく登録したボランティアには、登録時に職員から宅配サービスについての研修を行った。</p>
自己評価 取組改善点 A	<p>②利用者も参加できることで、コーナーの認知度が上がり、貸出数が伸びました。しかし、スペースの問題から、他課からの情報等をすべて掲示できず、資料も多ジャンルからの選書ができませんでした。</p> <p>④3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が離れているという問題が参加率の伸び悩みにつながっています。しかしながら、健康課と打ち合わせを重ね、令和 2 年度は健診会場の 2 階に場所を設けての実施が決まりました。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響により健診のあり方が変わっていく中で、どのように絵本と子育て事業を行っていくか慎重に検討していく必要があります。</p> <p>⑤全体研修として「視覚障害のある方への接遇のポイント」についてと、対面朗読についての全 1 回の研修を行う予定でしたが、どちらも 3 月に開催を予定していた</p>

	<p>め中止となりました。この2つの研修については開催可能になったら改めて行う予定です。</p> <p>また、専門研修については、研修内容や時期によって参加率にばらつきがみられることから、内容・時期等を検討したうえ積極的な参加の呼びかけが必要と考えています。</p> <p>⑥より積極的に利用者へのPRとボランティアの募集を行い、サービスの拡大に努める予定ですが、偏りによる一部のボランティアへの負担を避けるため、PR方法については検討していきます。</p>
備考	

基本方針	6 効率的・効果的な運営体制の構築
2019 年度事業目標	<p>① 行政職員として必要な知識を習得するため、窓口対応(接遇対応)などの研修を実施します。</p> <p>② 資質向上のための関係機関が開催する専門的な研修へ参加し、職員全体で情報を共有することで職員組織の強化を図ります。</p> <p>③ 図書館管理システムの更新とネットワークの再構築を行い、情報セキュリティ強化を実施します。</p> <p>④ 中央図書館・田無公民館耐震補強等改修基本設計を実施します。</p> <p>⑤ 図書館計画に基づく実施事業の自己評価を行い、図書館協議会による二次評価を実施します。</p>
具体的な取組	<p>①職員・専門員を対象とした全体研修、レファレンス研修、多文化サービス研修、文書事務研修等、課内研修を実施。 市職員を対象としたクレーム研修、ハラスメント研修、協働研修、財政白書研修、障害者差別解消法研修、情報セキュリティ研修等に参加した。</p> <p>②都立図書館や多摩地区図書館が開催する児童サービス、YA サービス、レファレンスサービス、ハンディキャップサービス、地域・行政資料サービスの担当者研修に参加し、研鑽を深めた。</p> <p>③ネットワークの再構築と、図書館管理システムの更新を行った。 ネットワーク更新では課題となっていた内部情報系と図書館管理システム(インターネット系)のネットワークを切り分け、セキュリティ強化を実施した。 図書館管理システムの田無庁舎内教育情報サーバ室への移設を行った。 図書館管理システムの更新により、館内 OPAC や図書館ホームページのリニューアルを実施し、地域行政資料のデジタルアーカイブの公開を開始した。</p> <p>④入札した業者、建築営繕課、図書館及び公民館と複数回打ち合わせを持ち、基本設計を作成した。</p> <p>⑤平成 30 年度図書館事業評価について自己評価として一次評価を実施し、評価案を作成して、7月の図書館協議会第2回定例会から説明、質疑応答を行い、11 月の第2回臨時会において協議会による事業評価(二次評価)を決定し、その後、内容を教育委員会に報告した。また、平成 26 年度からの5年間をまとめた事業評価については、平成 30 年度分を含めて、同様に報告を行った。</p>
自己評価 取組改善点 A	<p>③ サーバの庁内への移設に伴い、休館日の調整が必要になり、今後、利用者への周知を徹底し、混乱を最小限に抑える必要があります。 それぞれの項目について目標とする水準に開きがあるため、図書館事業全体を評価にまとめた場合、ばらつきが出てしまいます。</p> <p>⑤ 現状では事業ごとに取り組み具合が異なるため、目標の水準に開きが出ることは否めませんが、特に自己評価の段階で担当による評価を組織立ててチェックする仕組みの構築と事業計画作成や取り組みに繋げる方法に課題があります。</p>
備考	